

プラスチック問題に関する提言（骨子案）

はじめに

プラスチック問題の概要

- ・生態系や経済活動への影響
- ・世界や日本の動き
- ・沖縄県内の現状

I. 沖縄県が目指すべきプラスチック資源循環社会のビジョン

- ・県民、企業が一緒になって日本をリード（原田委員）
- ・先進地になると宣言（村上委員）
- ・島しょ型プラスチック資源循環社会の実現

II. プラスチック資源循環社会に向けた取り組み

1. プラスチック製品の使用削減

(1) 現状と課題

(2) 提言

- ・伝統的な資源循環の工夫や活用（沖縄らしいスタイル）（清野委員）
- ・新しいライフスタイルや消費のあり方（原田委員）
- ・ワンウェイプラスチックの先進的な削減（村上委員）
- ・マイタンブラー、マイ箸、マイスプーン、マイストローを当たり前（村上委員）
- ・サトウキビ等を原料とした代替製品（村上委員）
- ・軽量化によるプラスチック使用の削減（久鍋委員）

(3) モデル事例

- ・亀岡市（原田委員）

2. リサイクルの推進（資源循環の取組）

(1) 現状と課題

- ・市町村により分別方法が異なる（赤嶺委員）
- ・施設の処理能力不足（赤嶺委員・村上委員）
- ・処理施設の負のイメージ（赤嶺委員）
- ・製造業の現状と課題
- ・小売業の現状と課題
- ・本県が本土から遠隔地にあるための輸送体制・輸送コスト高

- ・リサイクル製品の販路
- ・リサイクル材の調達量
- ・県民の意識改革、及び普及啓発（ポイ捨て、不法投棄含む）

(2) 提言

- ・分別方法の統一とスケールメリットの創出（赤嶺委員）
- ・再資源化施設の整備（赤嶺委員、久鍋委員）
- ・リサイクル商品を行政が率先して利用、県民や企業への普及（赤嶺委員）

(3) モデル事例

- ・台湾（原田委員）

3. 漂着ごみ対策

(1) 現状と課題

- ・沖縄県内の取組状況

(2) 提言

- ・分解性プラスチックの開発（常盤委員）
- ・ごみを資源にするプラスの転換（村上委員）

(3) モデル事例

- ・対馬市（村上委員・原田委員・清野委員）

4. 環境教育

(1) 現状と課題

- ・県民への取組
- ・観光客への取組
- ・企業への取組

(2) 提言

- ・主体性を育む学習（調査や情報発信）（清野委員）
- ・回収～処理・活用までを含めた学習（村上委員）
- ・教育関係者との連携（原田委員）
- ・小中高生を対象とした海ゴミ・プラゴミに関する学習（原田委員）
- ・学習プログラムの活用（清野委員）

(3) モデル事例

5. ブランディング

(1) 現状と課題

(2) 提言

- ・ 県民のプライドにつながる脱プラ（村上委員）
- ・ 自然と共生するライフスタイル（村上委員）
- ・ キャッチフレーズ、発信力やムーブメントの醸成（浅利委員長）
- ・ 沖縄らしいスタイル（清野委員）

(3) モデル事例

亀岡市（原田委員）

6. 推進体制

(1) 現状と課題

(2) 提言

- ・ 沖縄県全体を大局的にとらえ、県がとりまとめ役を担う（赤嶺委員）
- ・ 県民、企業、行政、観光客、教育機関、研究機関が一体となった取り組み（原田委員・久鍋委員・浅利委員長）
- ・ ボランティア、NPO 法人との連携

(3) モデル事例

亀岡市（原田委員）

7. 制度の導入と活用

(1) 現状と課題

(2) 提言

- ・ 自立した制度の導入（デポジット制度など）（原田委員）
- ・ 国や県の補助制度の活用

(3) モデル事例

- ・ EU、台湾、亀岡市（原田委員）